

行仙宿巡回整備、行仙岳北側の段差改修

◇実施日 11月12日(日) 曇時々晴れ

◇参加者 沖崎吉信、生熊敏男・千満子、児嶋道夫、濱野兼吉、

大森洋、阪口雄二、湯川一郎、畑林清子、大江徳子、

上村和美、高階鈴子・美根子、梶野照雄 14名

モノレールの延伸工事は竣工したが、延伸したことによる色々な課題が出てくる。今日は児嶋さんが、終点の荷物置き場に手摺を取り付けてくれたし、阪口君は、付け替えた補給路に突き出た岩を石ノミで削る作業をお昼まで頑張ってくれた。



モノレールに荷物を積む



手摺を設置



行仙宿に着く

物置場の手摺が出来たが、手摺と床の間が広く、荷物が落下する可能性があるので、ネットを張って落下防止を。との提案があった。モノレールの荷台傍に足場は出来たが、運転席の乗降が未だ不便なままなので、足場の設置を考えなければならぬ。また、荷物置場に背負子などを収納する物置も欲しい。



竹中君のガイドツアー

段差材を運ぶ

行仙岳山頂

今日、延伸後初めて終点までモノレールに乗った生熊さんは終点の手前でエンジン部の突起が斜面の土に接触しそうな2ヶ所を見つけ、トンガで削って処理してくれた。

午前10時半過ぎに行仙小屋に着く。阪口君は岩削りを続けている。今日はポリタンク3個、24リッターの水を小屋迄運んだが、そろそろ水が凍りだすので、汲み置きの水はこれが最後になるだろう。昼食までに男性陣は午後の行仙岳北面作業用の段差材作りや道具類の準備を。女性陣は畑林さんが寄贈してくださった衣装ケースを使って枕の入れ替えや小屋、お堂の清掃などで忙しい。

そんな中、補給路から4人の登山者がやってきた。川上村の竹中君一行だ。竹中君は山岳ガイドで、大峰山脈で活躍し、地域おこしにも一役かっている。ツアーの3人の方に奥駆の日本手拭6枚をお買い上げいただいた。

お昼前に小屋で昼食、阪口君はまだ到着していない。児嶋さんがフライパン持参でソーセージの野菜炒めを作って、皆さんにおすそ分けしてくれた。全くマメで頭が下がる。

12時過ぎ、阪口君も到着し、作った段差材などを担いで行仙岳の北面に向かう。



段差補修作業

倒木を切除

段差を新設

行仙岳北側の段差は全部で300段位あると思うが、大半の段差材に腐食があり、杭が外れている箇所も多い。常に補修が必要だが、資材の運搬が課題で、少しずつ、こまめに運ぶ必要がある。2時間の作業で30段位の改修が出来れば上出来だろう。

今後行仙宿巡視の際は、行仙岳北側への資材運搬もメニューに入れ

ることも考えなければならぬ。今日の作業は二組に分かれ、下方の組(4名)が道を塞いでいる倒木の撤去と段差5段を新設。上方の組(4名)が20段の補修を行った。



本日の参加者



阪口君が削った岩



下山

午後2時前に行仙宿に戻って下山した。

(記:沖崎)

行動タイム

08:30 役場駐車場 08:40→09:10 補給路登山口→10:10 モノレール終点→10:37 行仙宿 12:05→12:40 行仙岳捲き道分岐 13:50→14:20 行仙宿→15:10 補給路登山口